

柿内賢信記念賞研究助成金
2007 年度受賞者の成果報告

「バイオ政治学の構築と発展」

白楽ロックビル(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科)

柿内賢信記念賞を受賞し大変光栄に思います。科学技術社会論学会および財団法人・倶進会に感謝します。記念賞の対象は、「バイオ政治学を構築し発展させるために、バイオ政治学の教科書を執筆する」ことでした。受賞による精神的な励み・サポートのお陰で、「バイオ政治学」の教科書の執筆は、おおむね一段落しました。心より感謝しています。

中国の諺に『水を飲むときは、井戸を掘った人のことを忘れるな』という言葉があります。14年前、東京駅のレストランで待ち合わせし、見ず知らずの私を科学技術社会の世界に導いて下さった横山輝雄先生に心より感謝しています。その後、横山先生のご紹介で、中島秀人先生、塚原修一先生がさらに導いて下さり、ずっと後には、平田光司先生、杉山滋郎先生にも大変励まされました。そして今回の受賞です。井戸を掘ってくれた人々に心より感謝しています。

助成金をいただいてから、「バイオ政治学」の教科書の執筆に取り組みました。「バイオ科学研究を人々の幸福に結びつけるにはどうしたらよいのか？」という視点でバイオ政治学を創設しましたが、「バイオ政治学」の教科書の執筆は、新しい学問であるバイオ政治学の基本を構築する作業で、ゼロから1を生み出す作業、あるいは、混沌に秩序を見いだす作業です。

私自身が重要だと信じてきた「バイオ政治学」は、学問の大きな流れの中で本当に通用するのか？ 翻弄され脱落してしまうのか？ 日本で生まれ育ち、さらには世界に発信し、いずれ世界をリードすることができるのか？ 新しい学問の基本を構築する困難さに直面し、時には呆然とし、時には悶々としましたが、一方、学問の「歴史を作る」という熱い気持ちを支えず、新しい時代を切り開くという希望を保つこともできました。

「バイオ政治学」の教科書は、書くべき内容が多く、途中から「バイオ政治学」を数巻構成にしました。今回、「バイオ政治学 第1巻」をまとめました。第1巻では、「基本概念、国民の幸福、研究と研究者、バイオ政治学習得法」を執筆し、著者の顔写真を表紙に、B5判、約180ページ、定価2000円となりました。第2巻以降では、「研究者倫理」「高等教育とキャリア形成」「バイオ研究動向」「メディアの中の生命科学」をまとめる予定です。

「バイオ政治学 第1巻」の見出しは以下のとおりです。

目次

はじめに

第1部 バイオ政治学の基本概念

第1章 「バイオ政治学」は「バイオ」の「政治学」である

第1節 「バイオ政治学」の「バイオ」とは？

第2節 「バイオ政治学」の「政治学」とは？



第3節「バイオ政治学」の対象は？

第4節 この章の課題

第2章 国民の幸福が第1

第1節「国民」とは誰か？

第2節人間はみな「幸福」求めているか？

第3節「幸福」とは何か？

第4節「幸福」になる方法の本

第5節精神の快適な居場所

第6節バイオ政治学が対象とする「国民の幸福」とは？

第7節この章の課題

第Ⅱ部 科学研究と研究者

第3章 研究成果としての論文

第1節科学情報の多様性

第2節科学情報の3次元説

第3節研究者は研究成果をどこに発表するか？

第4節論文とはどんなものか？

第5節論文をどのように発表するか？

第6節論文をどのように探し入手するか？

第7節 この章の課題

第4章 科学研究の進め方

第1節研究分野と研究テーマ

第2節科学研究の姿勢

第3節研究遂行の3段階

第4節 この章の課題

第5章 研究者の実態

第1節研究者の関心は「昇進」

第2節バイオ研究者の虚像と実像

第3節バイオ研究者は普通の人

第4節 この章の課題

第6章 研究者・白楽の日常と人生

第1節バイオ研究者(筆者)の生活と人生

第2節 この章の課題

第7章 学会発表、講演、政府委員

第1節学会発表

第2節講演、講演会・シンポジウムの世話人、学会運営、政府委員

第3節この章の課題

第Ⅲ部 バイオ政治学の習得法

第8章 バイオ政治学の研究室、学会、ウェブサイト

第1節「バイオ政治学」習得希望者 200 人以上に打診された

第2節大学・大学院で学び、就職する

第3節「バイオ政治学」の学会

第4節「バイオ政治学」の論文ジャーナル

第5節「バイオ政治学」のウェブサイト

第6節この章の課題

おわりに 著者紹介

私は、いままで、出版社を通して10冊程度の本を上梓してきましたが、ある時、編集者が、「良い本を作ることに関心はあるが、それよりも、売れる本を作らなければならない」とシミジミ慨嘆しておりました。商業出版物としては仕方ないことですが、学術図書は、学問研究を伝える手段であり、商業出版物とは次元が異なります。「売れる本」という姿勢は、そぐわないと感じていました。学術が商業主義に支配されすぎていると感じていたわけです。それで、「バイオ政治学 第1巻」は、科学技術社会論学会員とその関係者には助成金の範囲内で無料配布するつもりで、助成金で自費出版することにしました。価格を2,000円としたのは、助成金がなくなれば、以後、2,000円で頒布するということです。

最後に、再度、柿内賢信記念賞記の受賞を大変光栄に思うと同時に、科学技術社会論学会、財団法人・俱進会、井戸を掘ってくれた人々に感謝しています。

【研究成果】

白楽ロックビル著「バイオ政治学 第1巻」、B5判、約180ページ、2009年初頭刊行予定

2) 会計報告

助成金は、全額、所属大学（お茶の水女子大学）に強制的に寄付させられ、管理されています。

収入		500,000 円
支出	大学経理オーバーヘッド	25,000 円
	ビデオカメラ HDC-HS9-S	1台 118,000 円
	「バイオ政治学 第1巻」出版印刷費（予定）	357,000 円
残金		0 円

3) 研究「経過」報告 (A4で二枚程度)

助成金をいただいてから、「バイオ政治学」の教科書の執筆に取り組みました。「バイオ科学研究を人々の幸福に結びつけるにはどうしたらよいのか？」という視点でバイオ政治学を創設しましたが、「バイオ政治学」の教科書の執筆は、新しい学問であるバイオ政治学の基本を構築する作業で、ゼロから1を生み出す作業、あるいは、混沌に秩序を見いだす作業です。

「バイオ政治学」の教科書は、書くべき内容が多く、途中から「バイオ政治学」を数巻構成にしました。今回、「バイオ政治学 第1巻」をまとめました。第1巻では、「基本概念、国民の幸福、研究と研究者、バイオ政治学習得法」を執筆し、著者の顔写真を表紙に、B5判、約180ページ、定価2000円となりました。第2巻以降では、「研究者倫理」「高等教育とキャリア形成」「バイオ研究動向」「メディアの中の生命科学」をまとめる予定です。

執筆はおおむね完了していますが、もう少し推敲したいと考えています。完成した本は、何らかの方法で科学技術社会論学会の会員に届くようにしたいと考えています。

「バイオ政治学 第1巻」の見出しは以下のとおりです。

目次

はじめに

第I部 バイオ政治学の基本概念

第1章 「バイオ政治学」は「バイオ」の「政治学」である

第1節 「バイオ政治学」の「バイオ」とは？

第2節 「バイオ政治学」の「政治学」とは？

第3節 「バイオ政治学」の対象は？

第4節 この章の課題

第2章 国民の幸福が第1

第1節 「国民」とは誰か？

第2節 人間はみな「幸福」求めて生きているか？

第3節 「幸福」とは何か？

第4節 「幸福」になる方法の本

第5節 精神の快適な居場所

第6節 バイオ政治学が対象とする「国民の幸福」とは？

第7節 この章の課題

第II部 科学研究と研究者

第3章 研究成果としての論文

第1節 科学情報の多様性

第2節 科学情報の3次元説

第3節 研究者は研究成果をどこに発表するか？

第4節 論文とはどんなものか？

第5節 論文をどのように発表するか？

第6節 論文をどのように探し入手するか？



- 第7節 この章の課題
- 第4章 科学研究の進め方
 - 第1節 研究分野と研究テーマ
 - 第2節 科学研究の姿勢
 - 第3節 研究遂行の3段階
 - 第4節 この章の課題
- 第5章 研究者の実態
 - 第1節 研究者の関心は「昇進」
 - 第2節 バイオ研究者の虚像と実像
 - 第3節 バイオ研究者は普通の人
 - 第4節 この章の課題
- 第6章 研究者・白楽の日常と人生
 - 第2節 バイオ研究者(筆者)の生活と人生
 - 第2節 この章の課題
- 第7章 学会発表、講演、政府委員
 - 第1節 学会発表
 - 第2節 講演、講演会・シンポジウムの世話人、学会運営、政府委員
 - 第3節 この章の課題
- 第Ⅲ部 バイオ政治学の習得法
- 第8章 バイオ政治学の研究室、学会、ウェブサイト
 - 第1節 「バイオ政治学」習得希望者 200 人以上に打診された
 - 第2節 大学・大学院で学び、就職する
 - 第3節 「バイオ政治学」の学会
 - 第4節 「バイオ政治学」の論文ジャーナル
 - 第5節 「バイオ政治学」のウェブサイト
 - 第6節 この章の課題
- おわりに
- 著者紹介